

## 平成 25 年度 記者懇談会（第 4 回）の記録

日 時 平成 25 年 7 月 31 日（水）午後 3 時 00 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 11 人

同席者 阿部副市長、環境部長、防災・市民連携担当次長

- 次 第
- 1 ごみ減量化に向けた具体的な施策とスケジュール（案）について
  - 2 岩見沢市職員防災訓練の実施について
  - 3 その他について

### 1 ごみ減量化に向けた具体的な施策とスケジュール（案）について

#### 説明内容

（市長）

最初は「ごみ減量化に向けた具体的な施策とスケジュール（案）について」でございます。

A3 版の概要版をご覧ください。

まず、基本的な考え方でございますが、岩見沢市のごみ処理三原則である「ごみの減量」「ごみの再生利用」「自然にやさしい処理」を基本に、平成 24 年度に策定した一般廃棄物処理基本計画、平成 25 年 2 月のごみ減量化検討委員会から提言された「ごみ減量化・有料化について」、さらには、現埋立処分場の使用期間や、現在整備中の新ごみ処分場の供用開始を踏まえて、「ごみ減量化に向けた具体的な施策とスケジュール」を定め、ごみの分別徹底による減量化・資源化に取り組んでいくものであります。

岩見沢市のごみの現状を見ますと、平成 24 年度の燃やせないごみの組成調査では、家庭系で 22.1%、事業系で 40.7%の分別の違うごみや資源となるごみが混入しております。以前に比べ分別状況はよくなってきておりますが、例えば、この燃やせないごみの分別を徹底すると約 5,700 m<sup>3</sup>の埋め立てごみが削減されます。

分別の徹底により、多くのごみを資源化することが可能となります。

これらを踏まえたうえで、ごみ減量化に向けた具体的な施策とスケジュールを示しております。

まず、現処分場の 4 つの延命対策については、平成 27 年 3 月まで、すでに実施している減量化・資源化促進施策の 8 項目の取り組みを今後も引き続き、強化・拡大してまいります。

次に新たな施策として、6 項目の取り組みを進めます。

一つ目は、紙類の分別収集です。

紙類は、地域の集団資源回収を基本として取り組みを進めていますが、さらなる資源化を目指して、ダンボールや紙パック、菓子箱やカレンダーなどの雑がみ類をごみステーションで分別収集します。

二つ目は、危険ごみの分別収集です。  
蛍光管、乾電池、体温計、ライター、スプレー缶など、収集処理の安全確保や環境負荷低減のため分別収集とします。

三つ目は、びん、缶、ペットボトルの収集方法の追加です。  
これらは現在、リサイクルステーションで収集しておりますが、ごみステーションに比べて設置個所が少ないことから（リサイクルステーション約 800 か所に対し、ごみステーションは約 2,400 か所）ごみステーションでも収集し、資源化をさらに促進するものであります。

これらの3項目は、平成26年3月から実施してまいりたいと考えております。

四つ目は、集団資源回収事業の拡充です。  
これまでの紙類への奨励金に加えて、「びん」や「缶」も奨励金の対象として、資源回収量の増加を図るもので、平成26年4月からの実施を予定しております。  
(1kg 当り 2 円)

五つ目は、分別区分の変更です。  
新しいごみ処分場の焼却施設は、平成27年4月に供用開始予定でございますが、事前に3か月程度の試験運転が必要となります。このため、平成27年1月から「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」の分別を、新しい施設に合わせた区分に変更し、分別区分変更後の「燃やせるごみ」を新しい焼却炉で焼却します。

現在の分別では、「燃やせるごみ」は、紙くずや木くず、布くずや糸くずなどでしたが、新しい分別では、ほとんどが「燃やせるごみ」となり、「燃やせないごみ」は陶磁器やガラス類、金属類となります。このことによって、平成27年1月からは「燃やせないごみ」が大幅に減少することとなります。

六つ目は、ごみ有料化です。  
ごみの減量化・資源化を図るため、また市民負担の公平化、ごみ処理に対する市民意識の向上などのために、有料化を導入します。

導入時期は、現埋立処分場の残容量、新ごみ処分場の供用開始時期等を考慮して平成27年4月からとします。

なお資源化を進める意味から、有料化の対象となるごみは、「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」「大型ごみ」とし、「びん」「缶」「ペットボトル」などの資源ごみは無料とします。

料金は、「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」は指定ごみ袋として、1リットル当り2円、「大型ごみ」はシール制として1個当たり500円、処理場に持ち込む直接搬入については、ごみの重さに応じた従量制とし、10kg当り100円とします。

有料化による市民1人当りの家庭系ごみの負担額は、年間約2,000円程度と見込んでおります。

また減免は、ごみ減量化、リサイクルの促進という観点から、基本的には減免すべきではないと考えますが、ごみ減量化検討委員会の提言なども踏まえ、地域のボランティア清掃や乳幼児の紙おむつなどは減免措置を講じたいと考えております。

有料化による収入の使い道について、でございますが、指定袋やシールの作成費等の有料化運営費やごみ処理経費、減量化やリサイクル推進のための支援および助成に活用してまいります。

次に、ごみ量の目標でございます。従来から行っている減量化・資源化の施策に加えて、分別収集やごみ有料化などの新たな施策に取り組んだうえでの、平成27年度までの年度ごとの目標値でございます。

ごみの量では、資源ごみを除いた家庭系ごみと事業系ごみの合計が、平成24年度実績33,382tに対して、平成27年度の目標値は25,417t（約23.9%減）としました。1人1日当りにしますと、平成24年度実績1,040gに対して、平成27年度の目標値が814g（約21.7%）と、いずれも20%を超える減量となっております。

最後に、現処分場の埋め立て量について、でございます。今後、埋め立てするごみ量の推計について、有料化や新たな分別収集の実施スケジュールに合わせて見直すとともに、平成27年1月からの分別区分の変更や、新ごみ処分場での試験運転での焼却により、埋め立てるごみが大幅に減少することから、埋め立て量を見直した結果、平成27年3月末の残容量は、5,011m<sup>3</sup>となります。

この埋立量の試算は、有料化前の駆け込み排出量を見込んでいないため、有料化実施済みの他市の事例では、有料化前1か月間の排出量がそれまでの3倍という事例もあることから、3月のごみ量を3倍として試算すると、残容量は465m<sup>3</sup>となります。

今後この案を基に、井戸端会議等で、市民の皆様からご意見をお聞きしてまいります。

## **質疑応答**

### **（北海道新聞）**

有料化の意義について改めてお話しいただきたいのですが。

### **（市長）**

提言の中に示されているのは、ごみの減量化、排出の抑制を大きくすすめるということがございます。それと、有料化の取り組み自体は、現実問題として岩見沢市が一番最後に実施するということとなりますが、ごみ処理について、適正な負担を求めるといふことと併せて、ごみ量を削減する、そして他市からの持ち込みを減らす、ということなどを総合的に勘案しての実施ということでございます。

ただ有料化を実施するにあたっては十分な周知期間と、有料化後も引き続き取り組んでいただく減量化の取り組みと言うものを、具体的にお示しする必要があると思っておりますので、昨年 9 月、市長に就任させていただいた以降、ごみの市民懇談会、さらにはご提言などをいただきながら、市民の方々に対する周知も含めて、混乱なく、さらには、実施できる時期については平成 27 年 4 月というのが一番妥当である、言う結論に達したしだいでございます。

#### **(読売新聞)**

資料の 20 ページですが、有料化の実施状況道内 35 市とありまして、大型ごみについて 35 市中最後の実施ということいいんですよね。で、その他家庭系ごみ、事業系ごみ等々、道内 35 市中、家庭系ごみであれば残り 3 市、事業系ごみであれば残り 2 市がありますが、この実施時期、平成 27 年 4 月からの有料化を考えたときに、岩見沢はいずれも最後の状況ではない、と見込まれるのでしょうか。つまり、まだ実施していない街で、実施する動きがあるのかどうか、把握していれば教えてください。

#### **(環境部長)**

今のところ、新たに実施するという情報は入っておりません。

家庭系ごみで未実施なのは当市のほか、北斗市と富良野市、事業系ごみでは当市のほか、富良野市が未実施となっております。

#### **(プレス空知)**

手数料の関係なんですけれども、燃やせるごみ、燃やせないごみリッター 2 円。この基準は他の導入しているところと比べて、それほど変わらないのか。あとは、なぜ 2 円としたのか、横並びとしたのか、もし何か理由があればお聞かせください。

#### **(市長)**

これについては、他市の例ということで、料金設定につきましては均衡をはかるといいますか、充分参考にしたということ。それから、2 円程度見込んだ時に、市民負担が 1 人 2,000 円程度、総額で 2 億 5 千万程度の有料化による収益があがる。それをごみ処理の経費、さらには有料化にかかる運営費、減量化に対する経費ということで使わせていただく。また、高くしてさらに抑制をとということもあるのかもしれませんが、あまり現実的ではない。負担ばかり強くなってなかなか協力が得られない。また、安いと逆に近隣からのごみの持ち込みが増えるといったことも想定されないわけではない。そういったこともいろいろと勘案したうえで、おおむね 25 市で採用している 2 円というのが、岩見沢市においても妥当な水準ということで判断いたしました。

#### **(北海道新聞)**

先の市議会の委員会でも市民説明会、町会単位の説明会のことが出ていたのですが、今後の有料化実施に向けたスケジュール、市民説明会を含めた、どういう段取りで進めていくのかをお聞かせいただきたい。

#### **(市長)**

26 ある地区協単位で 9 月から説明会、井戸端会議を開催してまいります。具体的には明日以降、各地区協単位での日程調整を進めてまいります。実施は 9 月、おそらく中旬以降になるものと思いますが、まずそこから始めてまいります。

**(北海道新聞)**

ここに示された案というのは、まだ変更の余地があるのでしょうか。

**(市長)**

あくまで、まだ「案」ということで考えておりますので、このことについて、いろいろとご意見をいただきながら、ということになります。決定実行はございません。

**(プレス空知)**

ガチガチのものではない、と。

**(市長)**

実際には充分これまでの市民懇談会ですとかの中身も踏まえたいうえで決定はいたしましたけれども、これで一字一句変えない、というものではございません。

**(阿部副市長)**

例えば、資料にもありますが、ごみの袋、5種類ということで、5リッターから45リッターまでございますが、もっと小さな袋からですとか、逆にもっと大きな袋をとというような意見があるのかなと思います。他市の事例などでこれぐらいが良かろう、という想定でやっておりますが、これがもっと小さな袋からという要望が強ければ、これは考えていかなければならないと思っています。

有料化の時期ですとか、金額とかについては、一応これをお願いしたい、と考えております。

**(市長)**

どうしても市民負担が発生する訳でございますけれども、負担をしてまで分別をしなくていい、ということではなくて、念頭に置いていますが、新しい処分場が稼働することによって、ほとんどが燃やせるごみとして処理することが可能となります。その維持管理経費、運転経費など、ものを燃やす訳ですから、そう言ったものの低減を図る、お金の低減を図るという意味では、減量化は引き続き取り組んでいく、ということになろうかと思えます。

また、現段階から取り組みまして、新しい処分場の稼働後も引き続き実施をしていく、できるだけ排出減における削減、できるだけ環境にやさしい処理を岩見沢市として進めていく、ということでございます。

**(北海道新聞)**

岩見沢市は家庭系も事業系も粗大ごみも、ずっと無料収集という政策を継続してきたのですが、平成15年から20年の間に次々と各都市で有料化を実施し、減量化やリサイクルの効果というのが実証されてくる中で、どうして今まで無料を続けてきたのか、と言う理由を聞かせていただきたい。

**(市長)**

私、個人的な意見としては、十分な分別、例えば品目を増やすとか、もっと資源化を図る取り組みですとか、有料化についても検討していくべきではなかったのかなあという気はしますが。

一般廃棄物処理基本計画の中で初めて有料化という言葉が出たのは事実でございます。

### **(環境部長)**

実際に平成 24 年に基本計画を策定したときに出てきたものです。

### **(北海道新聞)**

先ほどの部長のお話しですと、これまでの前市長の答弁にもなりますが、市民負担を求める有料化以前に分別を徹底するという答弁がなされていて、これが市の姿勢だったと思うのです。結果的に有料化する前に分別の徹底が先であるという方針で進んできたと思いますが、この資料からしますと、結果として分別というのが全く徹底されていない。事業系で 40%もの混入がある。年間で言うと 8,600 トンもの混入になる。

### **(市長)**

それはどう言うことかと申しますと、減量化を図ると言っているけれども具体的に減量化する取組みが充分ではなかったということです。例えば、啓発・啓蒙活動で、ごみをもっと分別しましょうと言っても、それが数字として見たときに進んできたかと言うと、なかなか難しいところではある。具体的にどうするのか、というところが一番の課題だったのではないかと、思っている。

ごみ最終処分場の問題から始まって、岩見沢市のごみはこのままでいいのかと言う認識もありましたし、種々ご指摘も頂いた訳でございますし、そのことを踏まえて具体的に「こうしましょう」と言うのを実情をお示しして、協力を求めたというのが市民懇談会の始まりだったかと思えます。

そのことが抜本的に効果あったということではないのかも知れませんが、結果として平成 21・22・23 年の 3 か年平均と、24 年の単年度の実績を比べると、混入率自体は改善したと思っています。そういう取り組みは今後も続けていく。

それでも事業系のごみが 40 数%の混入率でございますが、これは今どんなことをしているのかという話になりますが、昨年末から商工会議所との協議、会報への掲載、各事業所の戸別訪問を実施しています。それに加えて、産業廃棄物の回収業者の皆さんへの協力依頼、また、出し方についても実情に合った出し方というのがないのか、協議を進めております。

事業系のごみを分別しましょう、という掛け声だけで分別が徹底すればそんなに楽なことではないのですが、分別を徹底するための具体的なアクションを今起こしている、ということになるかと思えます。そういった取り組みがやはり、市民の皆さんのご理解を得る、ということが一番重要なことと考えております。

### **(北海道新聞)**

有料化、今ようやく最後発として、そういう判断になった訳ですが、なぜもっと早くできなかったのか、例えば 10 年前になぜできなかったのか、それによっていろいろな問題が起こっている。分別は徹底されていないし、減量化も資料によると、国民一人あたりの 1 日のごみ排出量って 970 グラムなんですけど、岩見沢市は 1 割以上多い状態で、減量化がぜんぜん進んでいない。そういう中で、なぜもっと早く有料化という、いろいろな実績が各都市で、先行都市で出ている中で、なんでこんな状態になってしまったのか、という理由について、どういうふうにお考えなのか、お聞かせいただきたい。

### **(市長)**

理由というよりも経過が事実上、そういう経過だったということ踏まえた上で、今回の内容ということなのですが。もう少し早く検討する余地はあったのではないかという思いはいたしますが、現状の最終処分場の状況、これからの新しい処分場の稼働を見据えた上では、私はこれが一番、市民の理解を得る努力を積み重ねていく、ごみ処理としてはこれが望ましいのではないかと感じています。

おっしゃる通り、ごみの有料化をもっと早く進めるべきではなかったのか、そういうご指摘もあるのかもしれませんが、私自身は有料化されていないところから、有料化の是非について、充分検討したうえでやはり実施しよう、新しいごみ処分場、焼却施設の稼働を見据えた上で、より市民の皆さんに混乱のないよう、理解を得る努力を積み重ね、日程も充分に取ってまいりたいと考えております。

私の理解は、全てを知っている訳ではありませんが、廃棄物処理計画の中で初めて有料化というのが一定程度、オーソライズされた形で出てきた。内部でいろいろな検討、担当部での検討はあったのかもしれないですが、役所としての、行政としてのオーソライズされた形で有料化が組上に上ったのはそれが初めてです。

### **(毎日新聞)**

ごみの処理は無料と言われていた時、ごみの処理は市民で負担するんだって、全道で確か根室と滝川が早かったと記憶している。

### **(市長)**

岩見沢市のごみは割と早い段階でいろいろと先駆的な取り組みをやったりした時期があったのですが、いつの間にかすべて追い越されてしまったというような状況になっていた、と言うのも事実なのかなという感じはいたします。

### **(北海道新聞)**

先駆的な取り組みって、能勢市長の時代にはあったのかもしれないですが、どんな取り組みなのでしょう。

### **(市長)**

当時、大型の焼却炉でごみを燃やすなどの考え方もあった訳ですが、なるべく環境負荷を与えないで、土に還せるものは還そう、何よりもそのときはまるっきり分別をしていなかった状態ですから、いち早く分別をしようというものでした。そのときには、過度な市民負担を求めずに、現実的に簡単な燃やせるごみと燃やせないごみの2大分別、その後、多いところでは30品目ぐらいに分別していたところもあったようですが、そのことに対して、いろいろと協力員などのソフト的なメニューを付け加えて、分別・再資源化・減量化を図ってきたところもございます。

去年見た資料ですと、細かく分別すれば減量化が進むのかと言うと、統計的にはそういうことではない。だいたい、10品目程度の分別の方が、より減量効果が高い。分別を徹底すると言うことが減量化のベースになることは間違いないということです。

### **(北海道新聞)**

いま、お話がありましたが、すべて追い越されちゃったと。環境に優しい都市とは周りから見られていないと思うんですが、今後、環境に優しい都市という方向に向かっていくには、どのような施策が必要だとお考えでしょうか。

## (市長)

ごみ処理三原則でお示ししたことを忠実に具体化していく、というのが一つになるかと思っています。それから公共施設で排出される特に生ごみの始末、それから、公園や街路樹等の剪定枝、それから落ち葉の処理。今年はいわみざわ公園で、堆肥盤を2基から8基増やして10基にするのですが、いわみざわ公園内の剪定枝と落ち葉に関してはすべてマルチ肥料素材に換えたり、落ち葉を堆肥化して公園内で使うなど、緑のリサイクル事業を今年から実施してまいります。

公共施設から発生する生ごみ、昨年12月から市立病院の一部はクラインガルテンに、清和荘のごみも同様に処理をしております。排出をさせないということと併せて、排出されたごみも自然に優しい処理をしていくということでございます。

## 2 岩見沢市職員防災訓練の実施について

### 説明内容

#### (市長)

次の項目に移らせていただきます。岩見沢市職員防災訓練の実施について、でございます。

昨年9月の局地的な豪雨において、南利根別川や最上川の溢水による浸水被害が発生いたしました。

この際の対応では、避難勧告の遅れや災害対策本部の設置をはじめとする初動体制の遅れや避難所の運営、情報の収集や提供など、多くの課題が認識されたところであります。

このため、今後における災害への円滑、的確な対応や防災意識の高揚を図ることを目的として、市職員による防災訓練を実施することといたしました。

訓練日は、8月31日の土曜日、午前8時から正午までを予定しており、実施場所といたしましては、災害対策本部を設置する市役所本庁のほか、避難所2か所の設置をいたしまして、演習などを行う予定であります。

主な訓練につきましては、資料に記載の(1)～(4)の内容を考えております。

なお、具体的な内容につきましては、現在、総務部を中心に各部で検討しているところでございます。

次に、訓練の参加人数について、でございますが、私はもちろん、副市長や各部長、管理職のほか、当日、業務や予定がなく、訓練に参加可能な職員、約300名の参加を見込んでおります。

また、避難所を開設する地域町会のご協力をいただき、避難所における演習への住民参加についても予定しているところでございます。

1つの避難所に約20名、合計で40名程度を想定しております。

最後に、この訓練実施に当たって想定する付与状況でございますが、発達した低気圧の影響による大雨と、その後も雨が降り続くことにより、利根別川の



水位が上昇し、溢水による洪水が発生する、という想定で訓練を進める予定でございます。

なお、時間の経過と利根別川における各水位の上昇をグラフで示しておりますが、この時系列に基づき各種訓練を実施していく予定でございます。

先ほども申し上げましたが、具体的な訓練内容につきましては、現在、総務部を中心に各部で検討しているところであり、その内容や役割分担等が明確になった際には、再度、皆様にお知らせしたいと考えております。

## **質疑応答**

### **(北海道新聞)**

こういう防災訓練をこういう規模で、というのはこれまでもあるのでしょうか。

### **(防災・市民連携担当次長)**

市の職員を対象としたものはここ10年以上実施していないと思います。職員向けの訓練と言うのはここ最近では記憶にございません。

### **(市長)**

本部設営訓練というのを10年以上前に実施したことを記憶しておりますが、その間、これだけの規模の訓練を実施したことはありません。火災の避難訓練も本庁では実施していなかったかと思います。

昨年の大雨の時、何か所か避難所を設営したのですが、あれだけ短時間の災害でも情報がなかなか届かない。設営した中でも不便さを感じたことが多々あったと思うのですが、極々短時間であれば、耐えることができるケースもあるのでしょうか、一定の時間ということになりますと、避難所の環境をしっかりと整えなければなりません。そう言ったことを含め、まず、きちんとやった上で、問題点の洗い出しをして、具体的な対応策をとっていく、ということが必要だと認識しております。

### **(プレス空知)**

この訓練には消防本部も入ってくるのでしょうか。

### **(防災・市民連携担当次長)**

今のところ、(消防本部の)参加は上層部だけで、職員全員が訓練に参加するということは想定しておりません。

### **(市長)**

主には情報の伝達や通信の訓練を想定しております。

### **(防災・市民連携担当次長)**

情報の交換訓練になろうかと思います。

### **(HBC)**

対策本部はどちらに設置される予定でしょうか。

### **(市長)**

庁舎正面の1階、正面玄関のあたりになります。

**(HBC)**

お願いなのですが、訓練の一環の中で構わないので、報道機関に対する随時の情報の提供もお願いしたいと思います。

**(防災・市民連携担当次長)**

はい、わかりました。それは共同記者会見のような形でなくとも、情報の伝達という形でよろしいんですね。

**(HBC)**

昨年の対策本部設置時もそうだったのですが、誰か情報を統括する方が1人居て、集まってくる記者への対応をしていただければ結構です。もちろん有事の際にも、同様な対応をしていただけると助かりますが。

**(市長)**

昨年は確か、正面にホワイトボードを設置し、そこに全部情報を貼り付けて、いつでもどなたでも見ていただけるようにしていたと記憶しています。

情報の提供は、もちろん避難された方にとっても重要だと思いますので。

**(NHK)**

昨年の災害では、小規模河川がハザードマップに載っていなかったもので、いま、市で作っていらっしゃるのかと思いますが、現在の製作状況と伺いますか、進み具合はどうなっているのでしょうか。

**(防災・市民連携担当次長)**

先月、入札により決定しまして、現在データ作成に入っております。年内にデータが出来上がってくる予定でありまして、それを精査した後に印刷をし、3月か4月には出来上がってくるものと思っております。

**(市長)**

お聞きの通り、いま、データ作成中でございます。年内にデータが出来上がって、年明けから印刷をして、印刷物として配布する予定でございます。年度内には配布できると思っております。

**(NHK)**

そのまま訓練の時にもハザードマップを踏まえて、リアリティのある訓練に、ということをご考慮した訓練になるのでしょうか。

**(市長)**

被害想定をかけるのと、場所で考えているのは、避難所では美園小学校と東小学校、両方とも想定は利根別川ですね。

**(NHK)**

それはやはり去年のような災害を想定して、でしょうか。

**(市長)**

そうですね。美園小学校は去年、南利根別川の溢水で、避難所となりましたので。

**(NHK)**

去年の災害状況を踏まえて、まだ、ハザードマップはまだできていませんが、データの収集や分析もまだだけれども、去年の災害状況を踏まえてやる、ということですね。

### **(防災・市民連携担当次長)**

現在のハザードマップにも利根別川はありますので、浸水想定区域は掲載されています。ただ、具体的な中小河川を含めて、ということになりますと、まだ出来ておりませんので、今回は今あるハザードマップの浸水想定区域を予定してということで、利根別川沿いの地域で、美園小学校と東小学校で設定いたしました。

ですから今後、中小河川のハザードマップができましたら、来年以降、どういう形になるか分かりませんが、その際はそれを使って住民周知も含め、認識を高めてもらう中で、組み合わせた中での訓練というのは、考えられると思います。

今年は中小河川のハザードマップを使って、というのは申し訳ございませんが無理な状況にあります。

## **5 その他について（記者からの質問）**

### **質疑応答**

#### **(北海道新聞)**

アンテナショップですけれども、開店してから 1 か月が経ちます。現状をどのように認識されているのでしょうか。

#### **(市長)**

大変苦戦していると思います、実際問題として。まだ、品数があまり集まらないという現実的な課題もあるようですし、そこを今どうするのか、店舗的にもまだ、魅力ある店舗構成にはなっていないのかな、レイアウトも含めて。まずは品数と量を増やすということをいま、一生懸命担当職員が知恵を絞りながらやっております。

#### **(北海道新聞)**

8月に生産者の方が行ってイベントを行う、ということも聞いているのですが、特にいま品数、ですか。

#### **(市長)**

品数がまだ少ないという状況にあるとの報告を受けています。

#### **(北海道新聞)**

運営主体である農協にお願いするしかない状態なのでしょうか、市としても。

#### **(市長)**

それぞれお互いが協力し合って、農協さんも知恵を絞って、アンテナショップにも協力していただくということです。

#### **(北海道新聞・毎日新聞)**

売上はどれぐらいになっているのでしょうか。

#### **(市長)**

直近の売上は聞いていないのですが、初日は 20 万円ぐらいを売り上げたと聞いていますが、その後、低減傾向が続いているようで、ほぼ横ばいというところなんだろうな、と想像しているところでございます。詳しい報告は直近のものについて報告を受けていませんので、申し訳ございません。

#### **(毎日新聞)**

1日平均にするとどれぐらいの数字になっているのでしょうか。

**(市長)**

そこまで詳しい話を聞いておりません。苦戦をしているということは聞いています。品数と量が充分ではない状況にありますので、来られた（来店した）お客様が買うものがない、品数が多くないという状況になるのを一番心配しています。ですから品数と量を増やすことに当面力を入れてまいります。

**(北海道新聞)**

サマーレビューですが、もう終わったのでしょうか。それともまだ終わっていないのでしょうか。

**(市長)**

まだ終わっていません。

**(北海道新聞)**

当初は月末まで、という予定だったと思うんですが、いつぐらいまで。

**(市長)**

当初はできれば7月中ということで進めておりましたが、8月上旬、第1週目までには終了させたいと思っているところです。

**(北海道新聞)**

かなり担当課に檄が飛んでいるという話も聞くのですが。

**(市長)**

檄なんか飛ばしていませんよ。

**(北海道新聞)**

サマーレビューを実施した意義といいますか、効果のようなもの、良かったこと、利点なんかがあれば教えていただけますか。

**(市長)**

始める前にも申し上げたかと思うのですが、責任ある立場の者、各部長職の方に出席をしてもらっている訳でございますが、自分の分だけの課題ではなくて他の部の課題もきちんと共通認識をしてもらう、共通認識した中で、それぞれ意見もあるでしょうし、具体的な方向性というものに対する考えもあるでしょうから、そういったものを出し合いながら、大きな方向性をまず決めていく。それを基に、参考としながら各部で具体的な事業の実施につなげていく、ということが目的です。

当初の予定では31項目程度を目標に進めておりますし、時間が限られた中でのやり繰りですから、全員が揃わなくても開催しますし、それぞれの日程もありまして、朝から晩まですべて使える、という訳でもございませんので、集中的にはやっておりますけれども、その中でいくつかは次回、2回目に最後、報告を待ってというものもございまして、延びていたところがございます。

概ね、8月のできれば第1週、2日までに仕上げたいと思っていのですが、実は今日も予定していたのですが、今日もできないので、8月の第2週ぐらいですか、少なくともお盆前までには仕上げたいと思っております。

ということでやっておりますので、檄を飛ばしているなんていうことはありません。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)